

リピツァ飼育牧場 (Kobilarna Lipica)

平成28年4月
在スロベニア日本国大使館

ポイント

- 1580年設立、世界最古の歴史を持つ白馬の飼育牧場
- 「リピツァナー (Lipizzaner)」というハプスブルグ家で重用された白馬の産地
- ユネスコ無形文化遺産登録を目指し、スロベニア及びオーストリアの両国が協力し、白馬の飼育を行っている

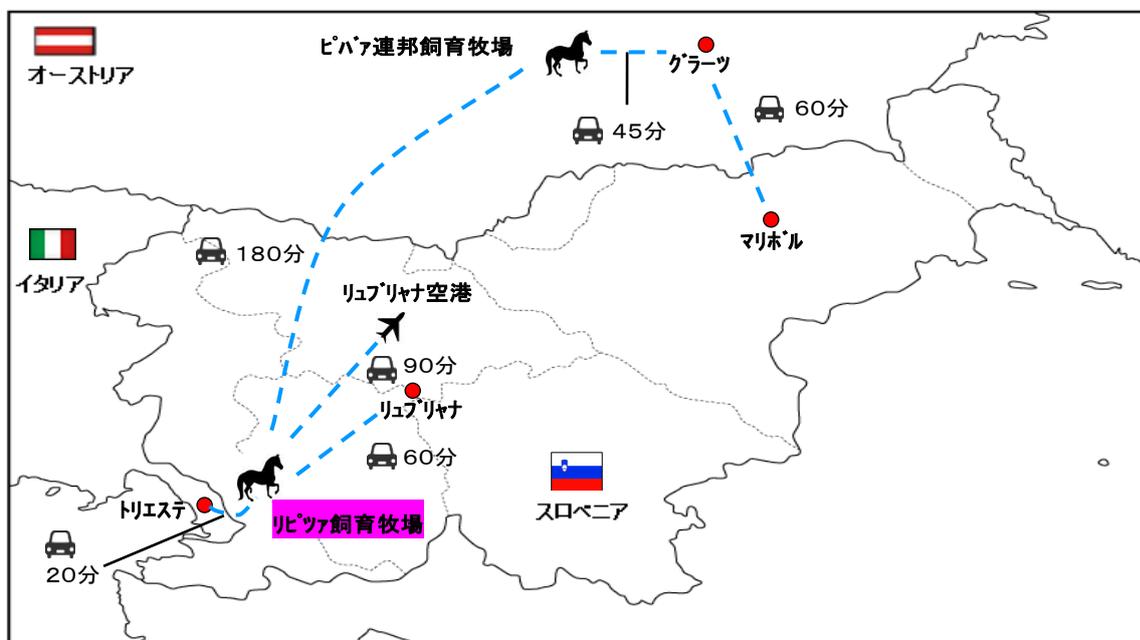


牧場案内図



- ① Hotel Maestoso、レストラン
- ② 7歳以上の牡馬用厩舎
- ③ 旧トリエステ司教邸宅
- ④ リピツァナー博物館
- ⑤ カルストハウス
(地域の特徴的な石造りの家)
- ⑥ 牝馬用厩舎
- ⑦ 室内競技場
- ⑧ 4歳以上の馬用厩舎
- ⑨ 馬術用馬場
- ⑩ 屋外競技場

スロベニア及び周辺国地図



リピツァナー(Lipizzaner)とは

- 16世紀にオーストリアで品種改良によって生み出された軽種馬。
- 当時、軍用馬の開発に取り組んでいたオーストリア帝国のハプスブルグ家は、スペインからアンダルシア馬を取り寄せ、これをクラドゥルビイ(Kladruby、現在のチェコ)に牧場を設け育成を始めた。その後、同牧場をリピツァにも設立し、地元のカルスト馬とかけ合わせ、地名に因んでこの牧場で育つ馬をリピツァナーと呼び、18世紀半ば頃までハプスブルグ家に重宝された。
- 白く美しい毛並みが特徴だが、生まれた時は黒やグレー、茶色の毛色で、約7年で徐々に白い毛に生え替わっていく。希に成長しても毛色が変わらず黒や茶色のままの場合もある。
- 他の馬に比べ比較的寿命が長く、平均寿命は約30年(人間換算では120歳)まで生きる馬もいる。現在の最長老馬は32歳。



リピツァナー

- リピツァナーの飼育は同牧場だけでなく、オーストリアのグラーツ近郊にあるピバア連邦飼育牧場(Piber Federal Farm/ドイツ語表記ではBundesgestüt Piber)と提携し行われている。種馬を交換しながら、リピツァナー種の保存を行い、ユネスコ無形文化遺産登録を目指し、両牧場が協力して飼育に関する技術の継承を行っている。
- なお、今日ウィーンのスペイン乗馬学校で使用される馬は、上記のピバア連邦飼育牧場から

提供されている。

- かつては軍馬やパレード用に使用されたリピツァナーだが、現在では馬術用の品種として用いられ、旧ユーゴスラビアでは、オリンピック馬術競技用の品種として重用された。
- リピツァナーは全世界で約6000頭が確認され、そのうちの約1000頭はスロベニア国内で飼育・育成されており、リピツァ飼育牧場では約340頭が、また民間において残りが飼育されている。

リピツァ(Lipica)の由来

- リピツァという地名は、リンデン(スロベニア語でLipa/日本語ではシナノキ科西洋菩提樹)の木に由来している。
- リンデンは、リピツァを含むカルスト地方(スロベニア西南部～イタリア北東部)に多く原生する樹木で、かつてトリエステを治めた司教がこの地に夏の離宮と馬の繁殖場を建てた際、リンデンに因んで、この地をリピツァ、そしてリピツァで育成した馬をリピツァナー(Lipizzaner)と呼ぶようになったと言われている。



シナノキ科西洋菩提樹

- 牧場では、今でもリンデンの花を5月に摘み、夏の日差しの下で乾燥させ、冬にハーブティー(「グッドナイトティー」、不眠症などに効用がある)として飲まれている。

リピツァ飼育牧場(Kobilarna Lipica)

●ハプスブルグ家によって1580年に設立された世界最古の白馬の飼育牧場である。ハプスブルグ家がこの地をトリエステ司教から買い取り、王室専用馬(リピツァナー)の飼育牧場となった。

最近では、過去2年間にわたり、EU資金を得て全面的な改修・整備をし、来園者がより楽しめるようになった。



1779年のリピツァ飼育牧場

●敷地面積は約300ha、周囲を緑に囲まれた牧場では、約340頭のリピツァナーが飼育されている。飼育された馬は、4歳までポストイナにある飼育場で調教され、その後リピツァにおいて競技用、馬車用、種馬用等に選別される。

オークションはなく、照会がある場合は個別に販売している。

●2008年にはイギリス女王のエリザベス2世がこの牧場を訪れるなど、各国の著名人が訪問している。



牧場へと続く道

リピツァ飼育牧場の歴史

●18～19世紀

牧場の長い歴史の中で、度々戦争の影響を受けることもあった。1796年、1805年、1809年の3度にわたるナポレオン軍の侵略の際には、その度、馬をハンガリー等へ避難させた。1815年に再びリピツァに拠点を戻したが、この戦乱の影響で代々続く血統台帳を喪失した。

●第一次～第二次大戦

第一次大戦中は、牧場がイタリア軍とオーストリア軍が衝突したイゾンツォ戦線(1915～1917年)に近かったため、イタリア軍の駐屯地になり、オーストリア皇帝の命でウィーン近郊に一部の馬を避難させた。1918年にオーストリア・ハンガリー帝国が崩壊すると、その後24年間に渡ってリピツァとそこへ残った馬はイタリアの占領下に置かれた。1943年にイタリアの支配が終わると、代わってドイツ軍が第二次大戦の終結までこれを占領した。

戦後～現在

●第二次大戦の終結後、1947年にリピツァの所有権は旧ユーゴスラビアへと渡った。当時、ドイツに対して馬の返還を求めたが、返還された馬はわずか11頭で、残りの馬はウィーンのスペイン乗馬学校やイタリアへ輸送された。この状況で牧場の存続は絶望的だと思われたが、旧ユーゴスラビアのチトー元大統領の尽力もあり、1953年に乗馬及び馬の訓練校が設立されるに至った。1960年に牧場は、伝統的なリピツァナーの繁殖牧場として一般に公開されることになり、こうして同牧場は国有化され、運営されている。